



2006年3月期決算説明会



2006年5月11日

証券コード 5017

AOCホールディングス株式会社

www.aochd.co.jp



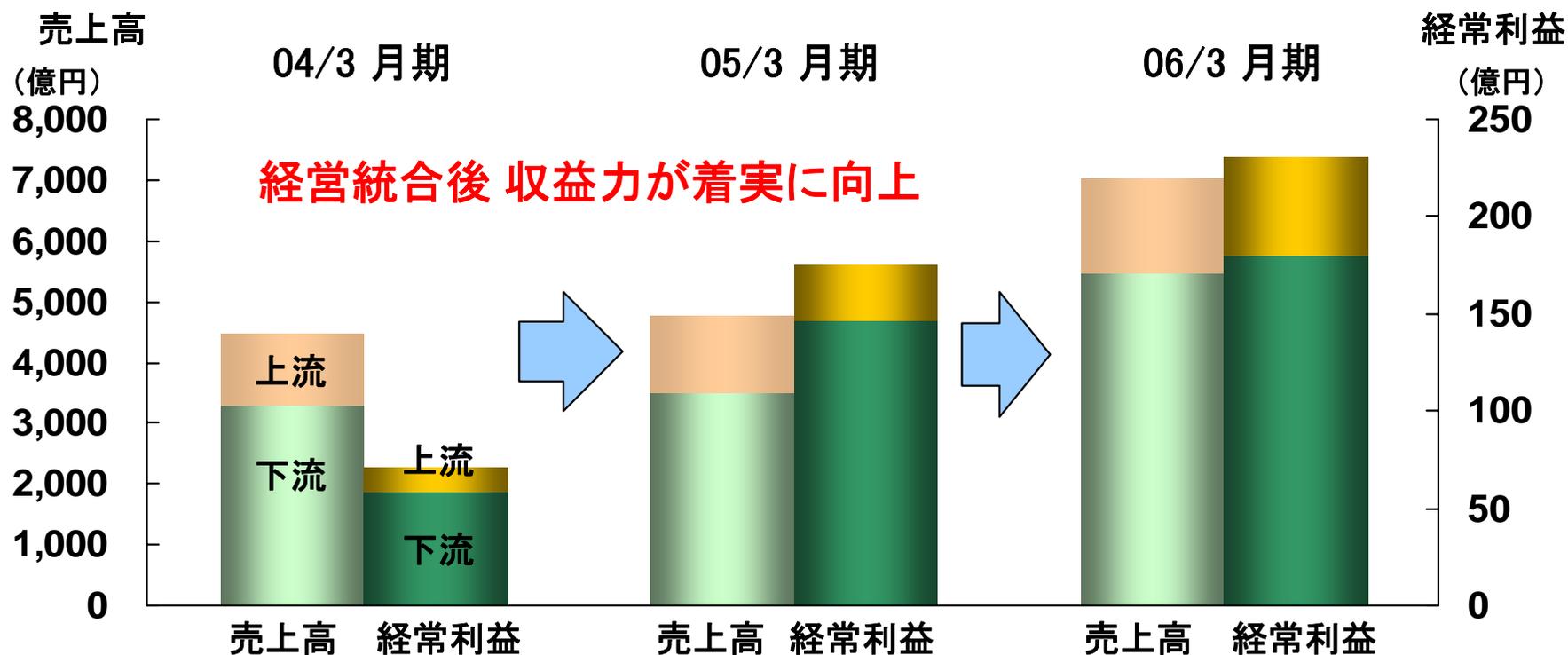
第一部 2006年3月期連結決算および 2007年3月期連結業績見通し



06/3月期 連結決算の概要

(億円)	06/3月期 \$53.5/Bbl ¥113/\$			05/3月期 \$36.6/Bbl ¥108/\$			増減額 \$16.9/Bbl ¥5/\$ 円安		
	上流	下流	計	上流	下流	計	上流	下流	計 (増減率)
売上高	1,535	5,478	7,013	1,258	3,514	4,772	277	1,964	2,240 (47%)
営業利益	33	164	198	34	149	184	△1	15	14 (8%)
経常利益	51	180	231	28	147	175	23	33	56 (32%)
当期利益	80	260	340	50	121	172	30	139	167 (97%)

(注)内部取引消去は下流部門に含めて表記。油価はドバイ原油。



セグメント別売上高/営業利益

内部取引 消去後 (億円)	06/3月期			05/3月期			増 減		
	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売
売上高	1,458	76	5,478	894	63	3,814	564	13	1,664
営業利益	1	32	164	7	27	149	△6	5	15

売上高/営業利益増減分析:

	増加要因	減少要因
売上高		
カフジ関連	油価上昇 +46% 販売数量増加 +15%	
石油・天然ガス/開発関連	油価上昇 +46% エコフィスク原油販売増 +75%	南海ミディアム原油販売減 △20 % 米国ガス権益売却 △33 %
石油精製/販売	単価上昇 +41% 販売量微増	
営業利益		
カフジ関連		原油販売費の増加
石油・天然ガス/開発関連	油価上昇	南海ミディアム販売減 米国ガス権益売却 △8億円 エジプト探鉱費の費用化 △3億円
石油精製/販売	在庫取出益 +41億円(37→78億円) 重軽格差の拡大基調の継続	定期修理による稼働率の低下 ベンゼン等化成品のマージン縮小

営業外損益／特別損益の内訳

営業外損益

(百万円)	06/3月期	05/3月期	増減
営業外収益	8,085	2,385	5,700
受取利息	1,486	633	853
受取配当金	49	38	11
持分法投資利益	2,081	355	1,726
為替差益	3,409	490	2,919
その他	1,058	865	193
営業外費用	4,759	3,276	1,483
支払利息	4,095	2,621	1,474
その他	664	655	9

特別損益

(百万円)	06/3月期	05/3月期	増減
特別利益	22,893	6,619	16,274
投資有価証券売却益	22,893	6,072	16,821
ガス操業権売却益	-	547	△547
特別損失	2,207	2,756	△549
減損損失	-	91	△91
固定資産除却損	429	327	102
退職給付費用	73	740	△667
投資有価証券評価損	-	462	△462
統合関連費用等	-	370	△370
旧利権協定関連清算 損失	1,638	-	1,638
その他	65	763	△698

原油販売量／販売価格

	販売量(千バーレル/日)			販売価格(\$/バーレル)	
	06/3月期	05/3月期	増減(%)	06/3月期	05/3月期
カフジ原油	93.0	78.7	18.2	49.44	33.64
フート原油	5.0	6.0	△16.7	53.86	36.86
南海ミディアム原油	2.9	3.6	△19.5	52.15	35.92
エコフィスク原油	0.7	0.4	75.0	53.42	37.50
合 計	101.6	88.7	14.5	—	—

- 南海ミディアム原油
- ・生産能力減退
 - ・設備工事/台風による一時的な生産停止
- エコフィスク原油
- ・追加生産井掘削/既存井の改修

石油製品販売量

(千KL)

	06/3月期	05/3月期	増減(%)
揮発油	1,771	1,640	8.0
ナフサ	347	328	5.8
ジェット	976	953	2.4
灯油	499	438	13.9
軽油	1,119	1,126	△0.6
A重油	580	518	12.0
C重油 (内電力向け)	1,178 (699)	1,142 (713)	3.2 (△2.0)
ベンゼン	148	176	△15.9
キシレン	283	297	△4.7
その他	523	576	△9.2
小計	7,424	7,193	3.2
ジョイント・バーター	1,333	1,533	△13.0
合計	8,757	8,726	0.4
内、輸出量(除バンカー)	105	166	△36.7

本下期より昭和シェル石油との新規業務提携を開始：燃料油を中心に800千KLを出荷

連結貸借対照表の主な増減項目

	06/3月期	05/3月期	増減額	増減要因 (億円)
流動資産	2,174	1,539	634	たな卸資産増加 +164 売掛金 +449
固定資産	1,323	1,393	△70	
有形固定資産	861	810	50	大規模定期修理時の施設更新等
投資その他の資産	447	570	△122	有価証券売却 △173 KGOC貸付 +57
資産合計	3,498	2,934	564	
流動負債	1,517	1,302	214	油価上昇による買掛金 +259
固定負債	771	857	△86	長借返済 △65 KGOC貸付見合 +57 繰延税金負債 △55 修繕引当金 △23
負債合計	2,288	2,159	128	
資本合計	1,200	763	436	当期利益 +340 第三者割当増資 +89 自己株式処分 +95 その他有価証券評価差額金 △86
負債・資本合計	3,498	2,934	564	

KGOC (Kuwait Gulf Oil Company) : クウェイトとの技術・サービス契約および融資契約の相手先

連結キャッシュフローの状況

(億円)

	06/3月期	05/3月期	増減	06/3月期説明
営業活動によるCF	△237	123	△360	税前利益 +438 売上債権増加 △439 たな卸資産増加 △164 投資CFへの振替額 △228
投資活動によるCF	133	△24	157	新日鉱HD株式売却 +276 KGOO貸付 等 △111 固定資産取得 △94
財務活動によるCF	103	△59	162	増資 +89 自己株処分 +95 長借ネット返済 △34 短借返済 △36
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	1	8	
現金及び現金同等物の増減	9	40	△31	
現金及び現金同等物の期首残高	299	221	78	
連結子会社増加に伴う現金及び現金同等物の増加額		37	△37	
現金及び現金同等物の期末残高	310	299	11	

▶ 事業環境

- ・ 原油は根強い需要と供給面での不安を背景に高値圏で推移
- ・ 原油重軽格差の拡大傾向は継続
- ・ 石油化学製品のマージンは縮小傾向

▶ 事業計画

上流事業

- ・ クウェイトとの技術サービス契約の下でのカフジ事業と既存石油生産事業の維持
- ・ 原油販売計画：94.1千バレル/日
- ・ 新規上流案件の発掘・事業化

下流事業

- ・ 昭和シェル石油との本格的取引開始（年間 3,000千KL）
- ・ 石油製品販売計画：7,973千KL
- ・ 第2流動接触分解装置（FCC）の建設着工

見通しの前提

- ◆ 原油価格：ドバイ原油
\$53.0/bbl
- ◆ 重軽格差 AL-AH：\$4.5
- ◆ 為替レート：113円/\$

07/3月期 通期連結業績見通し

実質営業利益(在庫影響を除く)は55億円増

単位:億円

	07/3月期 \$53.0/Bbl ¥113/\$			06/3月期 \$53.5/Bbl ¥113/\$			増減額 △\$0.5/Bbl ¥0/\$		
	上流	下流	計	上流	下流	計	上流	下流	計(増減率)
売上高	1,440	5,160	6,600	1,535	5,478	7,013	△95	△318	△413 (△5%)
営業利益 (在庫影響除き)	35	150	185 (175)	33	164	198 (120)	2	△14	△13 (△6%) (55) (46%)
経常利益	33	142	175	51	180	231	△18	△38	△56 (△24%)
当期利益	23	77	100	80	260	340	△57	△183	△240 (△70%)

セグメント別 明細 (内部取引 消去後)	07/3月期			06/3月期			増減		
	カジノ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カジノ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カジノ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売
売上高	1,353	87	5,160	1,458	76	5,478	△105	11	△318
営業利益	△5	40	150	1	32	164	△6	8	△14

営業利益の増減要因	上流	下流
増加要因	原油高	販売多様化によるマージンの拡大
減少要因	原油販売費の増加 探鉱費 △10億円	化成品・石油ピッチのマージン縮小 在庫取出益減 △68億円(78→10億円)

(注)内部取引消去は下流部門に含めて表記。油価はドバイ原油。

第二部 収益力の一層の向上に向けて

～中期事業計画(2006-08年度)の推進に当たって～



上流部門事業基盤の強化

- **カフジ共同操業への経営管理・技術サービスの継続**
 - ・08年1月に期限切れとなるクウェイトとの技術サービス契約の更新
- **既存石油開発・生産事業の維持・継続**
 - ・中国南シナ海原油生産事業では生産量減少を抑えるため既存井(3坑井)を改修
- **新規プロジェクトの発掘と事業化の推進**
 - ・積極的な投資活動 (06~08年度:650億円)
 - ・エジプト・スエズ湾(ノースウェスト・オクトーバー・鋳区)で試掘井の掘削を開始(06年4月下旬)
 - ・イラクとの技術協力を通じたイラク上流事業参入への足がかり確保



原油換算生産量30千B/D(08年度)の達成



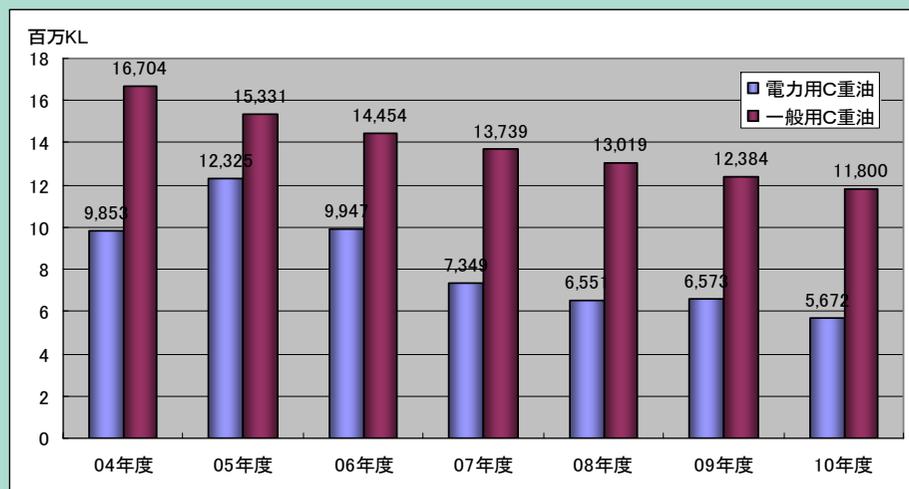
エジプト・スエズ湾の掘削リグ

下流部門収益力の一層の向上(1)

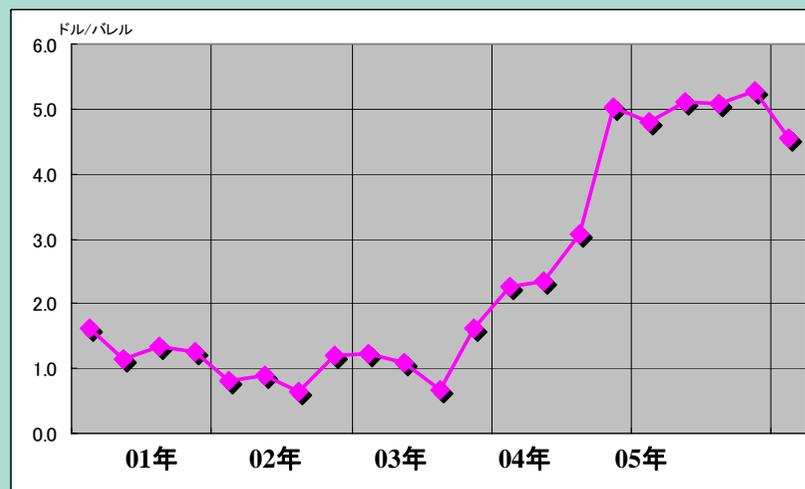
需要構造の変化への柔軟な対応

- 昭和シェルとの本格的取引開始／取引先の多様化
- 流動接触分解装置(FCC)増設・ユリカ装置増強(検討中)等による白油化・ボトムレス化への取組み
- 製品輸出の拡大
- 重軽格差拡大継続による比較優位

全国C重油需要見通し(経済産業省)



原油重軽格差推移 (四半期平均)

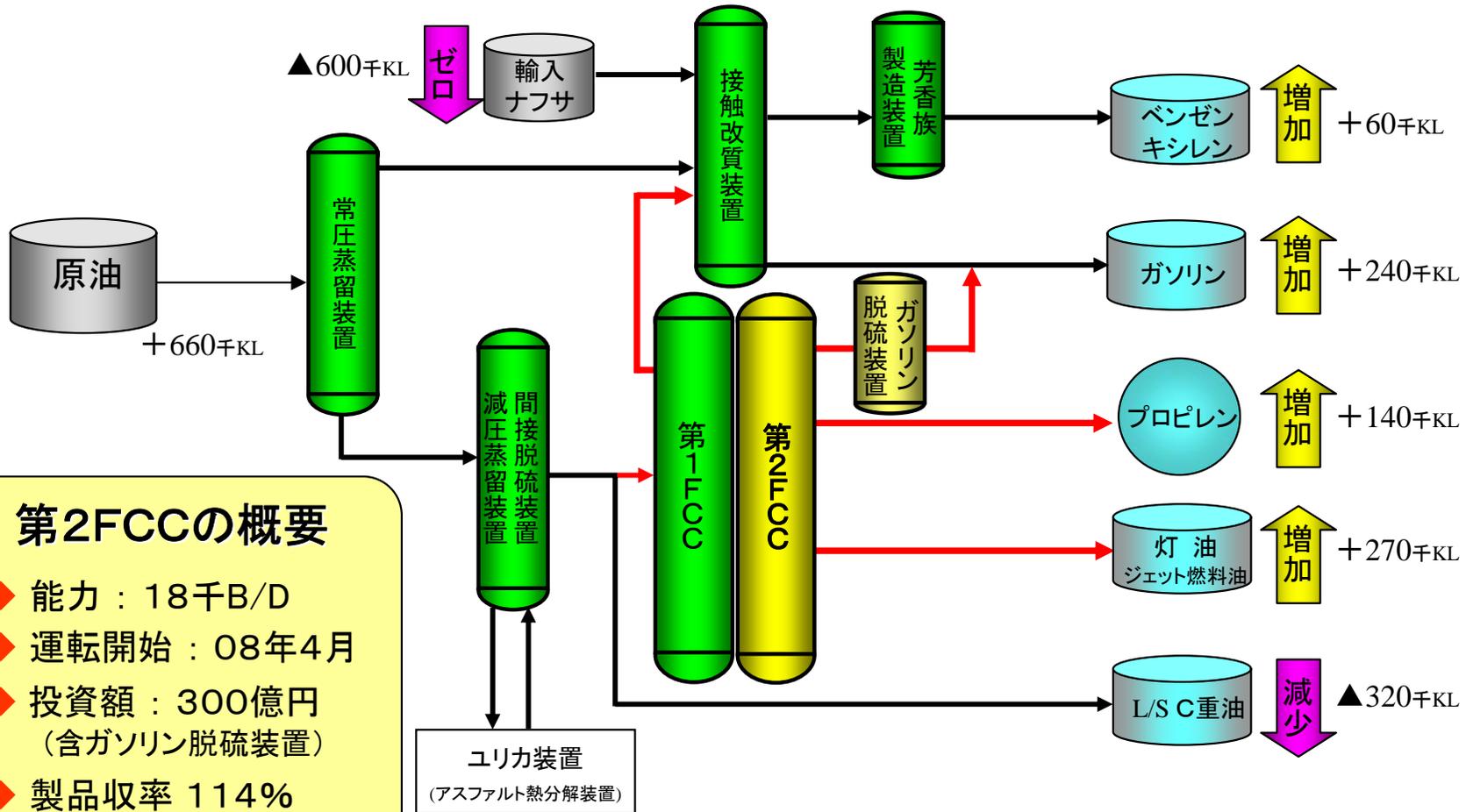


重軽格差はアラビアンライトとアラビアンヘビーの価格差

下流部門収益力の一層の向上(2)

第2流動接触分解装置(FCC)新設による柔軟な生産体制の確立

(第1FCC 18千B/D + 第2FCC 18千B/D ⇒ 36千B/D)



第2FCCの概要

- ◆ 能力：18千B/D
- ◆ 運転開始：08年4月
- ◆ 投資額：300億円
(含ガソリン脱硫装置)
- ◆ 製品収率 114%
(対第1FCC: +3%)

財務体質強化に向けた取組み

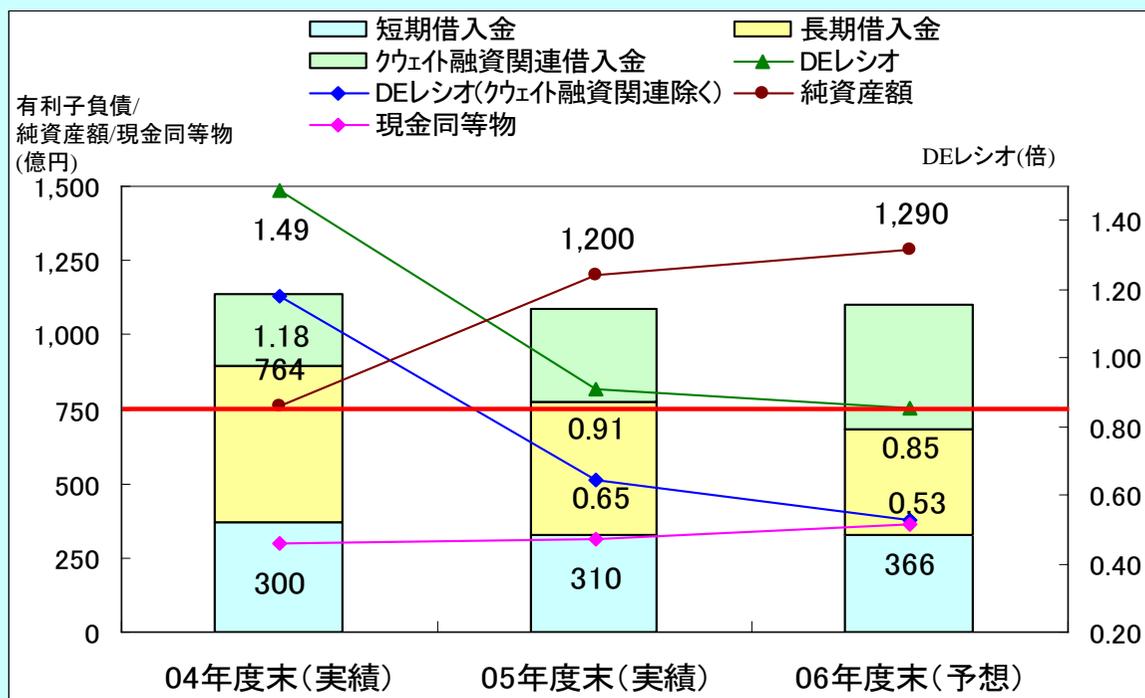
➤ 追加的キャッシュ・フロー創出

非事業資産処分、自己株式処分、第三者割当増資等非営業キャッシュフロー450億円

➤ 有利子負債削減目標(750億円以下)を実質的に一年前倒しで達成

油価高騰による運転資金増加に拘らず実質DEレシオは0.65倍まで改善

➤ 今後は実質DEレシオ0.8倍を堅持することで健全な財務体質を維持



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



www.aochd.co.jp/

お問い合わせ先:

IR・広報部 関川・粕谷まで